

学校新聞

おおまち



407号



《発行》

旭川市立大町小学校

《発行日》

令和5年11月24日

校長 新庄元幸

インフルエンザ流行について

旭川市は今月7日に「インフルエンザ流行発生注意報」を出しています。11月20日現在、今月だけで市内小中学校は学級閉鎖65学級、学年閉鎖5学年（計12学級）、学校閉鎖2校（計18学級）と、市内合計95の学級閉鎖がありました。幸い大町小ではインフルエンザにかかる児童はほとんどなく、この原稿を書いている21日もインフルエンザによる欠席は0です。

しかし、元気な大町っ子たちも油断してはいけません。教室では加湿器で空気の乾燥を防ぎ、定期的に換気を行なっています。子供たちには、こまめな手洗いと栄養・睡眠を十分とり、抵抗力を高めるよう各学級でお話をしているところです。冬への準備のためご家庭で外出することもあるかもしれませんが、人混みを避ける、マスクを使ってせきエチケットを心がけるなど、「うつさない・うつらない」ことがお互いの健康や生活を守ることになります。保護者・地域の皆様方も、ここしばらくはどうか気を付けてください。

人権週間について

さて話は変わりますが、11月5日に旭川市PTA連合会研究大会（旭川地場産センター）が開催され、その全体講演で高校日本代表監督を務められたラグビー指導者の松井英幸さんの講話がありました。指導者と（または親／先生と）選手との（または子供／児童・生徒との）関わりについて、自分の思いや気持ちを伝える難しさと、それを乗り越えたときのうれしさ・感動について、自分の経験を元にお話されていました。指導が思うように行かず、強引な指導から自身が起こした体罰事件や不適切な指導（マル・トリートメント）によって、選手・関係者から信頼・信用を失ってしまった過去を赤裸々にお話していました。「人の行動は、『単に外からの刺激によって決まるもの』ではなく、その当人が『最善と思ったものを自分の選択によって決めた結果』である」と考えを改めてから、選手達との接し方が変わり、自然に付き合うことができるようになってきたというお話でした。大人側の自身の物差しだけで、子供を評価し、コントロールしようとするのではなく、子供を一個の人間として尊重し、イメージや考えを引き出し、選択し・行動するための支援や指導を行っていく大切さをお話してくださいました。

12月4日～10日は人権週間です。いじめ、虐待、性被害、ネット上の人権侵害やあらゆる偏見、差別にしっかり対峙し、互いの人権を尊重し、認識する期間です。この後の右側の記事にもありますが、旭川市いじめ対策推進防止条例について、これまで子供たちに学年に合わせて伝えていきます。また、人権学習についていうと、今後も「誰か」のことではなく、「自分」と「身の回りの人」のこと、つまり自分事として考えられるよう指導をしていくことで、子供たちも、また先生方も人権について改めて考えを深めていくよう学校教育活動を進め、自他のウェルビーイングの実現を目指していきます。

「大町っ子の夢舞台！笑顔あふれる学芸会！」…10月28日

今年度の学芸会は、全校で土曜日に実施することができました。お子さんの学年ではない演目もたくさんの方に見ていただき、拍手やかけていただく言葉が、大いに子供たちの励みとなりました。ありがとうございました。



1年「まほうつかいのたからもの」



2年「ブレーメンの音楽隊」



5・6年
「杜子春」

3・4年
「ねこの島のおきゃくさま」



えがおでいきいき～いじめを見逃さない大町小学校に～

本校では、校内において「命のたいせつさ」「相手を思いやる気持ち」を育む授業や、年3回のアンケートを実施したりしています。先日本年度2回目の「いじめアンケート」を行ったところ、合計4件の「いやな思いをした」との声が寄せられました。いじめの芽を見逃さず、小さなトラブルのうちに解決することで子供たちに良好な交友関係を築いてもらうため、「いじめ防止基本方針」に基づき、今後3か月をめぐり、特に注意深く見守っていきます。今年度は今回の件を含め、全部で12件について同じように見守り、内5件については被害児童がその後嫌な思いをすることなく3か月を経過していることを見届けているところです。

旭川市では、先ごろ「旭川市いじめ防止対策推進条例」が制定されました。児童向けの解説リーフレット（右下）をすでに配布しております。5・6年生においては、この条例について、授業においても詳しく学習したところです。

みんなが、えがおでいきいき過ごせる大町小学校であり続けるために、ご家庭と学校、地域が手を取り合って、子供たちを育てる環境づくりに、今後ともご協力をお願いいたします。



条例全文はこちらから↑



12月のおもな行事予定

- 1日(金) PTA守る日 クラブ
- 4日(月) 図書返本週間(～8日)
- 5日(火) 参観日(3～6年)
- 6日(水) 参観日(1～2年)
- 7日(木) スクールカウンセラー来校
- 8日(金) 委員会
- 11日(月) 諸費引落日 冬休み図書貸出し(～15日)



- 12日(火) 学力テスト(全学年)
- 15日(金) 冬の集団下校訓練
- 18日(月) 朝会
- 25日(月) 2学期終業式
- 26日(火) 冬季休業開始(～1月14日まで)

令和5年度 大町小 全国学力・学習状況調査の結果から

本年度実施した全国学力・学習状況調査について、全国・北海道・旭川市の調査結果の概要が公開されました。そこで、本校の調査結果の概要をお知らせします。学校として分析結果をふまえ、さらに本校の教育活動を充実させていきたいと考えます。今後ともご協力をいただきますようお願い申し上げます。

《調査結果の分析と改善策》

国
語

○国語

概ねどの項目においても、全国平均を上回っていました。『言葉の特徴や使い方に関する事項』や『話すこと、聞くこと』の領域が全国平均を大きく上回る一方、『情報の扱い方に関する事項』は若干下回る結果となりました。問題別にみると、「漢字を文の中で正しく使う」、「話し手が聞きたいことや自分が伝えたいことの中心を捉える」問題の正答率が高い一方、「原因と結果など情報と情報の関係について理解する」問題の正答率は低い結果となっています。問題形式別の正答率は、全国平均より高いものの、前年度同様記述式の正答率が低いことが課題となっています。いくつかは満たしているもののすべての条件を満たしきれていない解答が見られました。

【改善策】記述式の問題。短時間で自分の考えをまとめて書く、キーワードを捉え要約する、などを大切に学習を今後も展開する必要があります。国語の学習だけでなく、他の学習でも自分の考えや大事な言葉（用語）落とさずに短い文章で要約する、記述することを繰り返し行い、記述することに抵抗なく取り組めるようにしていきます。また、朝の学習時間を利用して、ドリルパークなどを活用し既習の漢字や文法の復習を行うことで、さらに基礎基本の定着を図ります。

《調査結果の分析と改善策》

算
数

○算数

どの領域においても、全国平均を大きく上回っていました。『変化と関係』や『データの活用』においては正答率が高く、割合やグラフの読み取り等の力が付いていることがうかがえます。問題別に見ると正答率にばらつきがあり、「台形の性質を理解しているかどうかを見る問題」や「百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる問題」の正答率が全国平均をかなり上回る一方、「伴って変わる2つの数量が比例の関係であることを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる問題」や「加法と乗法の混合した整数の計算をしたり分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる問題」は、全国平均を若干下回る結果となりました。また、平均は上回るものの「正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる問題」の正答率は低い傾向にありました。

【改善策】

『変化と関係』『データの活用』領域など、知識・技能の基礎的な計算問題や用語などは比較的正答率が高い傾向にあります。これからは基本的事項を身に付けた上での知識・技能の「活用」にも力を入れていく必要があります。正答率が低かった領域は、今年度も3・4年生で学習した「図形」の三角形の問題でした。前年度までに学習した内容の学び直しにも力を入れていくことが大切です。学校では、朝活でのドリルパークの活用や宿題の中で定期的に前学年までの内容を出題するなど、計画的に前学年までの内容を出題し、これまで以上に既習事項の定着を図ります。

○児童質問紙より

前年度同様、「朝食をしっかりと食べる」「起床・就寝時間が決まっている」など、基本的な生活習慣が定着している児童が多い様子が見えます。また、「人が困っているときには進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」「友達関係に満足している」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることはよくある」「先生はよいところを褒めてくれる」「先生は間違えたところやわからないところをわかるまで教えてくれる。」などの設問には、すべての児童が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えていました。以上のような「心理的安全性」や「自己有用感」の高さは、大町っ子の学習の成果を支える基盤となっています。

国語や算数の学習に関しては、得意、苦手の意識に個人差がありましたが、「難しい問題にもあきらめず最後まで解こうと努力した。」と答えています。

「読者は好き」とほとんどの子が答えているにもかかわらず、読書に充てる時間が短く、図書館に出向く機会が少ない傾向にあります。家で動画を見たりゲームをしたりする時間を減らし、学習や読書、運動の時間を増やせるよう声掛けが必要です。学校とご家庭で協力して子どもたちに声掛けを続けましょう。

今後も職員が一丸となって、日常の学習指導や生活指導において、子供たちが「えがおでいきいき」過ごせるよう尽力していきます。

今後とも保護者の皆さま、地域の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

